

令和3年度 調布市立染地小学校 学校経営計画（学校長 大柳 ひろみ）

学校の教育目標

あたたかく（自他の尊重）たくましく（目標・ねばり強さ）まえむきに（多様な考え・主体的に）生きる子どもの育成

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

「子ども一人一人が大切にされていることを実感できる」教育を基盤にし、「なりたい自分」に向かう児童が育つ学校  
 \* 深い児童理解に基づいた指導・支援をする学校 児童一人一人が目標をもつ場を保証し、やり遂げるまでの努力を親身になって指導・支援する学校  
 \* 教職員が結束した学校 経営方針に基づき、学校を創造する組織の一員として自己の能力を発揮できる学校  
 \* 家庭・地域が協働する学校 地域学校協働本部を中心に、保護者・地域との連携及び協力を推進し、教育活動を充実していく学校

ビジョンの設定理由  
 (本校の現状と課題)

- \* 本校の子どもたちは心優しく穏やかな気風がある。学校生活や行事にも落ち着いて取り組んでいる。校外の世界でも力を発揮できるよう、さらに長所を伸ばし可能性を引き出して、自信と活力をもたせていく。そのために、全ての教育活動において「子どものためになるか」を議論の中心とし、全教職員が、深い児童理解に基づいた個に応じた適切な指導・支援の力を身に付けることが課題である。
- \* 学習・生活規律を一層定着させるとともに、確かな学力の定着を図るための具体的取組を確立する。
- \* 個別に支援を必要とする児童について、関係諸機関と連携を図りながら、その特性に応じた指導・支援を行う。
- \* 経営方針に基づいて、一人一人の教職員が各自の職務において創造性を発揮する。
- \* 保護者・地域とのネットワークを効果的に生かし、地域学校協働本部を中心とした協力体制を構築する。

中期的な経営目標

- 1 自他を尊重し思いやりを育てる道徳教育を推進し、いじめ及び学校が原因の不登校0（ゼロ）にする。
- 2 基礎的・基本的な学習内容を身に付け、学力調査全教科を平均85パーセント以上とする。
- 3 基礎的な生活習慣の確立と運動することの楽しさを味わわせることによって、健康と体力の向上を推進し、体力調査の結果を現状よりも上げる。
- 4 「みんなの子どもをみんなで育てる」学校づくりを推進し、学校の教育活動にかかわる保護者を全体の9割とする。
- 5 特別支援教育の推進を図り、教室で過ごせない児童を0（ゼロ）にする。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 発表や交流等の多様な場を設定し、かかわりや体験を通して、児童の自己肯定感や違いを受容する能力を育む教育活動を充実させる。	① 学習の基盤(ルール・環境等)を全校で統一して学習効果を上げるとともに、目標を設定し達成に向けて主体的に学習に取り組む態度を養う。	① 染地スタンダードを基に、基礎的な生活習慣の確立と健康な生活リズムの定着を図り、学習や生活のめあてをもたせる。
② 児童が目標をもって取り組む活動の充実を図る。隔月1回程度の「こころの日」を設定し、目標・挑戦・努力等をキーワードとした全校取組を実施する。	② 四教科を中心に、基礎・基本の定着を図る授業改善を進める。特に家庭学習との連続性をもたせた授業展開を工夫する。	② 体育科学習の授業改善(運動の日常化・継続した取組)を進める。また、外遊びを推奨するとともに、縄跳び集会やマラソン集会等の取組を通して全校での運動の機会を設ける。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 年間3回、自尊感情測定尺度を実施。自尊感情測定尺度の肯定的な回答85%を目指す。	① まとめのテスト(漢字・計算)を各学期末に全校取組として実施。目標値クリアの児童の割合において各学級85%を目指す。	① 学校評価アンケートにおいて、「あいさつ、規範意識の定着」肯定的な回答85%を目指す。
② 学校関係者評価アンケートにおいて、自他のよさを認める・目標をもってねばり強く取り組むことに関する肯定的な回答85%を目指す。	② 学期に各1回の児童アンケートと、保護者による学校評価アンケートにおいて「授業が分かる」肯定的な回答85%を目指す。学力調査全教科を平均75パーセント以上とする。	② 体力テストから課題を見出し、改善を図る取組について学校評価アンケートで肯定的な回答80%を目指す。また児童アンケートで運動に関する肯定的な回答85%を目指す。

学校の特徴を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 保護者・地域との連携	5 特別支援教育
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 保護者会や学校公開等の機会の工夫、学校だより・ホームページ等を活用した積極的な発信によって、保護者・地域の理解と協力を得て、共に育てる意識を高める。	① 異学年(たてわり班活動)や特別支援学級との双方向の交流活動(ICT活用の交流を含む)を行い、多様な価値観を認め合い自他を尊重する経験と理解を促進する。
① 「地域学校協働本部」の導入を機に、コーディネート力を生かして地域の学習資源を発掘し、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながらゲストティーチャーの活用や体験的学習の充実を図る。	② 特別な支援を必要とする児童に対しては、合理的配慮委員会を開き、特別支援教室や特別支援学級とも連携し、個の特性やニーズに応じたきめ細やかな指導をより一層充実させる。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 学校評価アンケートにおいて、学校と保護者・地域の連携に関する肯定的な回答85%以上を目指す。	① 学校評価アンケートにおいて、多様な価値観を認め合う指導や特別支援学級との交流に関する肯定的な回答85%を目指す。
② 学校評価アンケートにおいて外部講師の活用や体験的な学習等の充実に関する肯定的な回答80%以上を目指す。	② 学校評価アンケートにおいて、特別支援教育に関する肯定的な回答85%を目指す。

人材育成・組織運営

- ・ 教職員の結束する力と協働する力の強さを組織運営に生かし、全教職員を学校運営に主体的に参画させる。
- ・ 教員の指導力および資質の向上を組織的に図る。特に、経験年数の浅い教員の育成に力を入れ、一人一人の責任の重さとそこから生まれる創意工夫を尊重し、学校の教育力を強化していく。
- ・ 仕事の仕方を見直して「働き方改革」を推進。個人の仕事の精度を上げて無駄を省き、児童に係る作業や授業準備・教材研究の時間を確保する。

